

# 北海道がんセンター通信

2020

第56号

JULY



撮影者：事務部 企画課 業務班長 山本亮次郎

## CONTENTS

● 令和2年度を迎えて	院長	加藤 秀則	……	2
● がんゲノム医療を開始しました	がんゲノム医療センター 副センター長	横内 浩	……	3
● 患者申し出療養制度下での乳がんラジオ波熱焼灼療法 (RFA)	副院長	高橋 将人	……	4
● 各科トピックス 「骨軟部腫瘍科」	骨軟部腫瘍科医長	新井 隆太	……	5
● 新しい「くすり」が誕生するために	治験管理室	山岸 佳代	……	6
● 着任医師のご紹介			……	7
● 新病院建替工事進捗状況について	業務班長	山本亮次郎	……	8・9
● 開催報告「看護研究発表会」	教育研修係長	近 麻美	……	10
● 「うちって、がん家系かも…」と思ったら。	がんゲノム医療センター 認定遺伝カウンセラー	箕浦 祐子	……	11
● 参加報告「北海道がん患者就労支援研修会」	がん相談支援センター 相談支援・情報管理係長	榎野 裕也	……	11
● 開催報告「卵巣がんサロン」	がん相談支援センター ピアサポーター	松本 洋子	……	11
● がん検診のご案内			……	12

**北海道がんセンターの理念**  
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

- 1 北海道がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

# 令和2年度を迎えて

病院長 加藤 秀 則



当院で職員及び患者さんの間に大規模なクラスターが発生してしまい、患者さんはもとよりご家族、関係する皆様、罹患した職員とご家族などに多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことに衷心よりお詫び申し上げたいと存じます。感染した一部の患者さんの治療を行うとともに、院内の消毒、感染対策の強化に2ヶ月間取り組んでまいりました。その結果、保健所及び関係者と協議した結果6月13日をもって感染が収束いたしました。

入院、外来、手術、職員ケア、それぞれの感染対策チームも結成しましたのでさらに感染対策強化に取り組んでいく所存です。

今年はいよいよ2期目の外来・病棟部門の工事が完了し、診療施設のすべてが同じ敷地内で新しくなります。今の所、秋の開棟を計画しております。外来はホスピタルストリートと呼ばれる広い廊下の両側に50を超える各科外来診察室が配置されます。30床の化学療法室も作られ、年々増加する外来抗がん剤治療の需要にも十分対応できるようになります。病室も個室の多い広い部屋になり、中心にナースステーションを配置した機能的な病棟になります。最上階にはテラスを持った、全室個室26床の待望の緩和病棟も完成します。緩和医療提供体制がより充実したものになると考えています。その他様々な新しい設備が完成する予定です。

このようなハード面の更新と並行して医療提供体制のさらなる充実も行っていきたいと思えます。診療科ではより良質のがん診療を行うための診療科（医師）を増やしてきております。高齢化に伴い循環器科も必須なものとなってきており、今年度から循環器専門医が4人に増員され、新設の診断機器を駆使しほとんどの循環器疾患に対応していきます。また今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延で感染症専門医が脚光を浴びましたが、がん治療の場面においても感染症対策は不可避なもので専任の感染症専門医、対策チームも常勤しています。また、がんと闘いながら、より良い生活を送るためには、リハビリテーションもしっかり施行されなければなりません。常勤のリハ医師も勤務しており、療法士も増員されて新しいリハ室で各種リハビリに対応していきます。歯科、形成外科、皮膚科、眼科も従来より勤務しており各種ケア、合併症などにも十分対応できる体制になっております。その他折に触れて紹介させていただいておりますが、緩和、医療安全、栄養サポート、感染対策、褥瘡対策などなど多くの多職種横断チームが活動しています。

病院設備の更新よりも、院内感染に十分注意しながらこのような医療の質を日々更新して高めていくことこそ、最も肝要なことと肝に銘じ職員一同、一層努力していく一年でありたいと思えます。

# がんゲノム医療を開始しました

がんゲノム医療センター 副センター長 横内 浩



がんゲノム医療とは、患者さん個人の遺伝子情報に基づき、どのような抗がん剤（分子標的治療）を選ぶのがよいか、免疫治療は効きやすいかなど個別に治療を決めていく医療で、当院では保険診療のみを取り扱っております。10割負担額で56万円と高額になっておりますことをご理解ください。

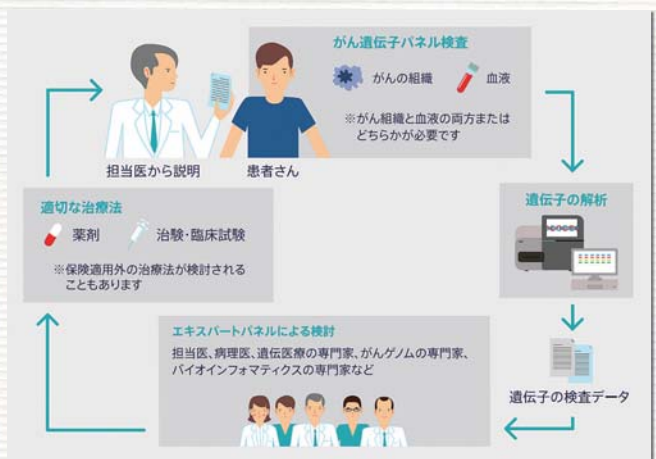
対象患者さんは、進行固形がんですでに標準治療を終えられている方、あるいは原発不明がんなどのまれな腫瘍をお持ちの未治療/既治療の方になります。患者さんのがんの一部（+血液）を約100～300個の遺伝子を搭載したパネル検査にかけて、その結果をもとに治療方法を見つけます（図参照）。

当院は2019年9月に道内では唯一のがんゲノム医療拠点病院として厚労省より指定を受けました。すでに北大病院ががんゲノム医療中核拠点病院に認定されておりますが、道内のがん患者さんにゲノム医療を広くお届けするため北大病院を補完する形で、当院も医療提供体制を整え、この4月よりがんゲノム医療を開始しました。

患者さんに治療薬をお届けできるかを検討するために、院内で患者さん毎にエキスパートパネルという会議を開催いたします。この会議では、各臓器がんの専門医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラーを含む様々な医療従事者が集まり、がん遺伝子パネルの結果を詳しく話し合います。また北大病院などと道内・国内の最新治験、患者申し出療養制度、先進医療情報を共有し、患者さんに最適治療をご提供する体制を整えております。ただ、この検査を行っても新たな治療に結び付く患者さんは10～15%程度にとどまります。検査という入り口はあっても、治療という出口が少ないことが大きな課題です。また予期していなかった結果が返ってくることもあります。がんは通常、親子遺伝とは関連のない、がんだけに発生する遺伝子異常により生じます。ただ中には生まれ持った遺伝子の個体差によって生じるがん（遺伝性腫瘍もしくは家族性腫瘍といいます）がこの医療で見つかる場合もあります。ゲノム医療を受ける前にはこの情報を知りたいか、知りたくないかを事前にお伺いいたします。知りたいというご希望があり、遺伝性腫瘍の可能性が高いという結果が返ってきた際には、当院の遺伝カウンセラーに、治療のこと、遺伝のこと、心配ごとを相談することができます。ゲノム医療を希望される当院の患者さんは、担当主治医とご相談いただき本医療の対象であること、意義があることをご確認ください。

院外の方は主治医を通して当院担当の診療科にご相談いただいた上で紹介いただければと思います。初めて本検査を受ける際には当院のがん相談支援センターが右図を含むパンフレットを通して、検査内容をわかりやすく説明いたします。

現在準備中の連携施設の先生方とも一緒に、道内のがん医療をさらに充実させて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



「がん遺伝子パネル検査」を検討する方にご理解いただきたいことより抜粋（国立がん研究センターがんゲノム情報管理センター制作）

# 患者申し出療養制度下での乳がんラジオ波熱焼灼療法 (RFA)



副院長 高橋 将人

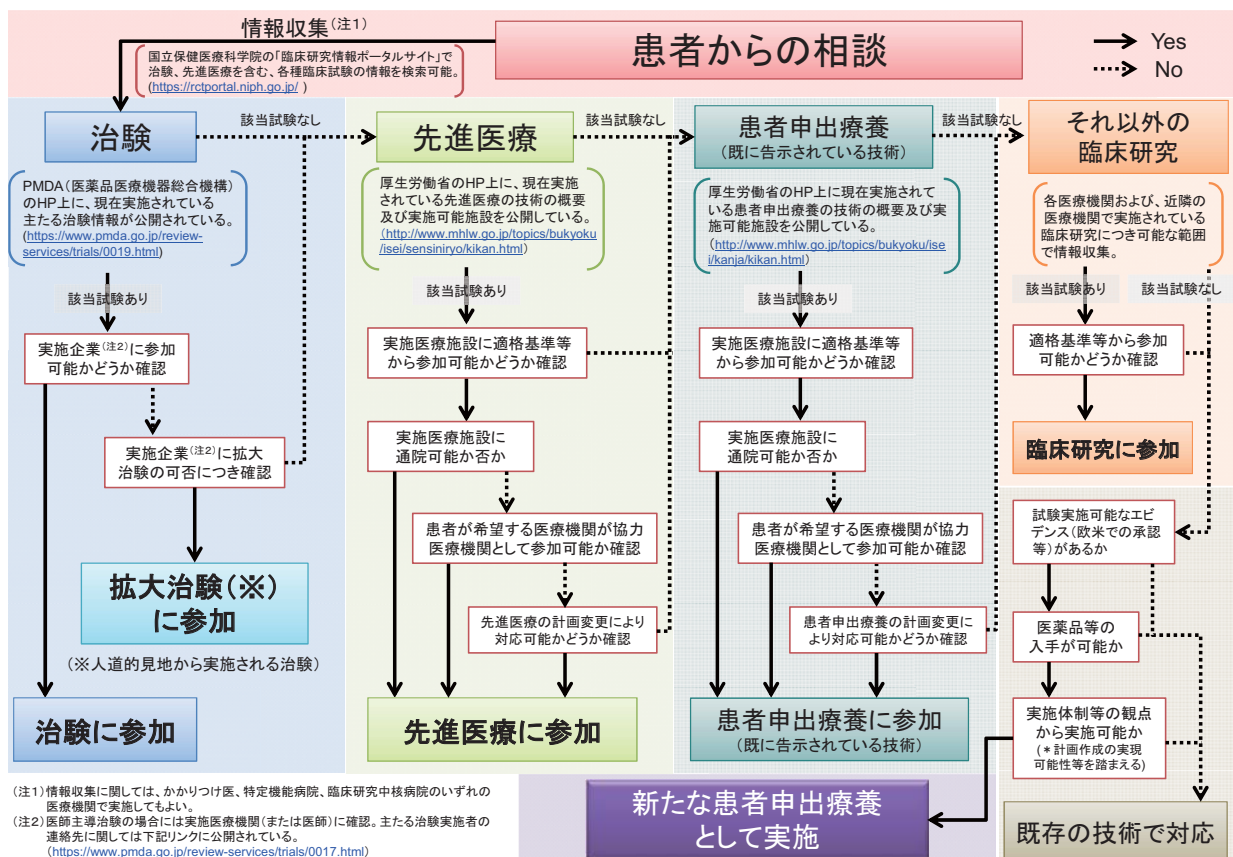
乳がんは女性の最も罹患する頻度の高いがんであり、現在も増加の一途をたどっている。乳がんが罹患したことが判明すると患者さんは命に関わる疾患なので病気を根治したいと考える一方、女性の象徴である乳房にメスをいれたくないという非常に複雑な思いで悩む。その悩みは若い方はもちろんのこと、年齢を経ても消えることはない。

ラジオ波熱焼灼療法 (RFA) は、全身麻酔下に皮膚表面よりがんの中心にニードル (針) を穿刺し、ラジオ波を数分間通電させ病変部を70度以上の高温として焼灼する方法である。がんは熱で完全に死滅し、切除を必要としないため乳房に傷は残らない。このように乳がん治療においてRFAは美容面で優れた方法であるが、その治療効果および安全性のdataが不十分であった。

臨床的な重要性からAMED研究に採択され2013年より国立がん研究センターと当院を含めた日本のがん治療の専門病院を中心とした研究グループで、1.5cm以下の限局した乳がんに対して、文書で同意を得た患者に対して先進医療でのRFA治療を開始された。患者の安全性を確保するためにRFA治療後温存乳房に対して全例に放射線治療を行い、その3ヶ月後に焼灼部およびその周囲の針生検を必須とした。その結果がんの遺残が疑われる場合は、確認のため切除を義務づけられていた。また定期的に超音波やMRIを含めた画像診断を行い、5年間嚴重に乳房内再発がないことを確認する必要がある。高い安全性と有効性が確認された場合は、保険適用への道が開ける。

中間解析時点で温存乳房内再発をきたした症例は非常に少なく、乳房温存手術に匹敵する結果であることが予想された。現在観察期間中であるが、先進医療での登録は終了したため現在この治療は保険適用されておらず、乳房内無再発率の結果が最終的に判明する2022年までこの治療を受ける方法はない。そのため、2019年より患者申し出療養制度が始まり、当院でも希望する患者にその制度が応用されRFA治療が可能となった (図)。

## 患者申し出療養制度の概要



厚生労働省ホームページより引用



## 軟部腫瘍科

### 「骨軟部腫瘍科のご紹介」

#### ① 骨軟部腫瘍科について

骨軟部腫瘍科では、骨や軟部（筋肉、神経、血管など）に発生するがん（悪性の腫瘍）および良性腫瘍（悪性でない腫瘍）について診療及び治療にあたっています。骨が発生母体となる原発性骨腫瘍、軟部が発生母体となる原発性軟部腫瘍、さまざまな臓器のがんが骨に転移して発生する転移性骨腫瘍があげられます。また、悪性リンパ腫や骨髄腫などの血液腫瘍が骨や軟部に発生した場合にも当科の診療の対象となることがあります。

当科は、北海道内および全国の整形外科をはじめとして様々な科から、患者様のご相談や診療の依頼を受け付けております。当科は、北海道における骨軟部腫瘍の診療の中心的役割を担っており、骨軟部腫瘍に関する患者様の数や診療実績は道内最多となっています。現在は、平賀博明教育研修部長、私（新井隆太）、および相馬有医師と研修医1名で診療にあたっています。

#### ② 骨軟部腫瘍科での診断

診断を行うにあたっては、患者様の問診や身体所見に加えて、採血や尿検査、レントゲン写真やCT、MRIなどの画像検査が必要不可欠です。また、腫瘍から組織を採取する「生検」という検査が必要になることがあります。これには、針を用いて組織を採取する「針生検」と、切開して組織を塊で採取する「切開生検」があり、針生検は外来で行うこともあります。生検は、治療の方針を決定するうえで大変重要な検査となります。

#### ③ 骨軟部腫瘍科での治療

原発性の骨および軟部腫瘍に対しては、手術での切除が主体となる外科的治療、抗がん剤を用いた化学療法、放射線や粒子線の照射による放射線治療といった、様々な治療方法を適切に組み合わせて治療を行っていきます。当科は、

これらの腫瘍に対する長年の診療実績と豊富な経験、経験豊富な医師や病棟スタッフを有しており、最新の知見も加味して患者様に最善となるような診断および治療を行っています。また、他科との連携が必要になることもあり、その際には緊密なコミュニケーションや連携を取りながら、診療にあたっています。



骨軟部腫瘍科医長  
新井 隆太

転移性骨腫瘍に関しては、原発となる科の先生と患者様の様子を確認しながら、治療方針を決定していきます。近年では、がんに対する様々な治療方法が開発され、患者様の生命予後の飛躍的な改善が進んでいます。これに伴い、がんに罹患した患者様でも高い生活の質（QOL）の追及が必要となってきております。がんの骨への転移は、骨折や脊髄圧迫といった高いQOLの妨げとなる事象を引き起こすことから、その診断および治療は、近年より重要性を増しています。当科では転移性腫瘍に対して、診療及び手術などの治療に積極的に参加して、患者様のより満足できる日常生活を提供できるようにお手伝いしていきたいと考えています。

#### ④ 最後に

骨や軟部に発生する腫瘍は、その頻度が決して多いものではなくまた情報も少ないため、患者様には様々な不安を抱えていらっしゃる方が少なくありません。我々は、病気そのものを治療するだけでなく、患者様が満足できる日常生活を過ごすことができるように考えながら診断や治療にあたっております。不安なことや不明なこと、また日常生活のことなども含めてご相談いただければ、と考えております。



# 新しい「くすり」が誕生するために



新しい「くすり」が誕生するには、基礎研究から始まり、承認・発売されるまでに、長い年月と多額の研究費が必要です。

「くすり」の候補として研究を始めた化合物が新しい「くすり」として発売される確率は、およそ3万分の1とされています。開発には「治(ち)験(けん)」といって、新薬の候補を健康な人や患者さんに使用して頂き、安全性や効果について検証するための試験が必要となります。治験は患者さんのご協力がなくては成り立ちません。そのため研究的側面がある治験の実施は、患者さんの倫理的配慮を十分考慮した上で、効果や副作用が科学的に正確に調べられるよう、国際的に厳格なルール(GCP)が遵守できる医療機関に限って実施されています。

海外で使われている「くすり」を使いたいと願う患者さんは少なくありません。海外で一般的に使われている薬が日本で承認されて使えるようになるまで時間差があります。それを一日でも短くすることを目指して、国内でも様々な取り組みを進めています。患者さんに治験について正しい認識をもってもらうことも、くすりの承認への第一歩につながり、当院でもさまざまな治験を実施しています。

## ● くすりが誕生するまで

STEP  
1

【基礎研究】2年～3年

数多くの候補物質の中から「くすり」になる可能性のある物質を選びます。



STEP  
2

【非臨床試験】3年～5年

動物を用いて物質の有効性や安全性を研究します。



STEP  
3

【臨床試験(治験)】3年～7年

人での有効性や安全性を3つの段階に分けて調べます。



● 第Ⅰ相試験：少数の健康な人を対象に(患者さんの場合もあり)

「くすり」の安全性や「くすり」が体の中にどのように行き渡るか調べます。

● 第Ⅱ相試験：少数の患者さんを対象に有効で安全な「くすり」の量や使い方を調べます。

● 第Ⅲ相試験：多くの患者さんを対象に有効性と安全性をすでに発売されている「くすり」などと比較します。

STEP  
4

【承認審査】1年～2年

治験で確認された結果は、厚生労働省に提出され、「くすり」として役立つかどうか審査を受けます。



STEP  
5

【くすりの誕生】

たくさんの研究と、たくさんの協力を経て、ようやく「くすり」として使用することができます。



STEP  
6

【製造販売後調査】

「くすり」が病院で使われるようになって、さらに実際に多くの患者さんに使われた場合の効果や安全性、副作用などを調べます。

当院には治験業務を円滑に実施するために「治験管理室」が設置されています。

「治験管理室」にはCRC(治験コーディネーター)として、薬剤師2名、看護師が9名配置されており、患者さん(被験者)が安心・納得して治験に参加できるように、医師・院内スタッフ・製薬会社(治験依頼者)の調整役として働いています。



(報告：治験管理室 山岸 佳代)

# 着任医師の紹介

- ①名前・ふりがな ②職名 ③専門分野  
④略歴・資格 ⑤所属学会

## 血液内科

### ① 坂井 俊哉 さかい としや

- ②血液内科医師 ③血液内科 ④日本血液学会、血液専門医、日本内科学会、総合内科専門医 ⑤日本内科学会、日本血液学会



## 循環器内科

### ① 佐藤 祐樹 さとう ゆうき

- ②循環器内科医師 ③循環器内科



## 消化器外科

### ① 小林 正幸 こばやし ただゆき

- ②消化器外科医師 ③消化器外科 ⑤日本外科学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本臨床外科学会、日本消化器病学会、日本内視鏡外科学会、日本胃癌学会



## 乳腺外科

### ① 太刀川 花恵 たちかわ はなえ

- ②乳腺外科医師 ③乳腺外科 ④日本外科学会、外科専門医、検診マンモグラフィ読影認定医 ⑤日本外科学会、日本臨床外科学会、日本乳癌学会、日本癌治療学会



## 呼吸器外科

### ① 高橋 有毅 たかはし ゆうき

- ②呼吸器外科医師 ③呼吸器外科、内視鏡外科 ⑤日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本内視鏡外科学会



## 泌尿器科

### ① 相澤 翔吾 あいざわ しょうご

- ②泌尿器科医師 ③泌尿器科 ⑤日本泌尿器科学会



## 頭頸部外科

### ① 佐藤 孝大 さとう こうだい

- ②頭頸部外科医師 ③耳鼻咽喉科一般 ⑤日本耳鼻咽喉科学会



## 婦人科

### ① 黒須 博之 くろす ひろゆき

- ②婦人科医師 ③産婦人科 ④日本産科婦人科学会、専門医、日本臨床細胞学会、細胞診専門医、日本周産期・新生児医学会、周産期専門医、日本がん治療認定医機構、がん治療認定医 ⑤日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本周産期新生児医学会、日本癌治療学会、日本臨床細胞学会、日本女性医学学会、日本生殖医学会、婦人科悪性腫瘍研究機構



## 放射線診断科

### ① 七戸 柳絵 しちのへ やえ

- ②放射線診断科医師 ③放射線診断 ④日本医学放射線学会、放射線診断専門医 ⑤日本医学放射線学会



## 放射線診断科

### ① 中村 友亮 なかむら ゆうすけ

- ②放射線診断科医師 ③画像診断 ⑤日本医学放射線学会



## 骨軟部腫瘍科

### ① 中條 誠也 なかじょう まさや

- ②骨軟部腫瘍科医師 (レジデント)



## 放射線治療科

### ① 檜垣 朔 ひがき はじめ

- ②放射線治療科医師 (レジデント) ③放射線治療 ⑤日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会



## 口腔腫瘍外科

### ① 篠原 早紀 しのはら さき

- ②口腔腫瘍外科医師 (レジデント) ④日本口腔外科学会、口腔外科認定医 ⑤日本口腔外科学会



## 放射線診断科

### ① 小嶋 亜矢子 こしま あやこ

- ②放射線診断科医師 (レジデント) ⑤日本医学放射線学会



## 放射線診断科

### ① 古家 翔 ふるや しょう

- ②放射線診断科医師 ③放射線診断 ⑤日本医学放射線学会、日本核医学学会



# 新病院建替工事進捗状況について

昨年4月に着手いたしました第Ⅱ期新築工事は本年2月に上棟し、4月の初旬には外壁（押出成形セメント板）の取り付けが終了、その後、窓等の取り付けも完了し、先日建物を覆っていた足場が外され、ついに外観をみることができるようになりました（表紙写真）。

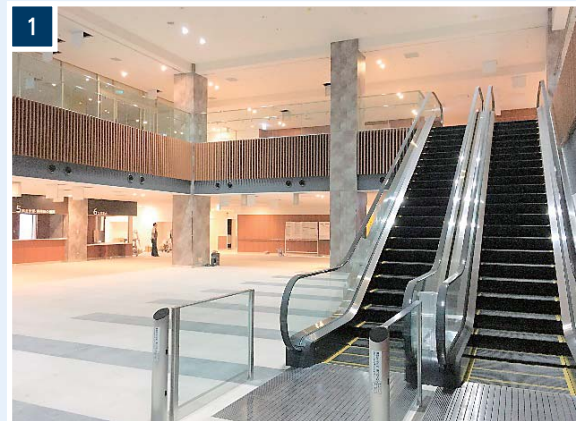
並行して進めてまいりました内装仕上げ工事も完了間近となり、各種の検査を行った後、いよいよ竣工間近となりました。新病院の開院は本年秋を予定しております。

第Ⅱ期新築工事の最中は、通行止めや騒音等、皆様にはご迷惑をおかけいたしました。事故等発生する事なく無事に工事の完成を迎える事ができた事をご報告いたします。工事へのご理解とご協力を賜り誠に有り難うございました。

今後は令和3年度に予定しているグランドオープンに向け第Ⅲ期工事を予定しております。第Ⅲ期工事では旧棟解体工事に引き続き駐車場の整備を中心とした外構工事を行うこととなっております。工事が始まりますと騒音や大型車両の通行などで、皆さまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。



完成予想図（外観）



- 1 エントランスホール**  
2層吹き抜けのエントランスホールは北側がガラスのカーテンウォールになっており、年間を通して安定した自然採光の得られる明るい空間です。主玄関に直結したエスカレーターにより迷うことなく2階にアプローチすることが出来ます。
- 2 ホスピタルストリート**
- 3 各科外来診察室前**  
広い廊下の両側に50を超える各科外来診察室を配置しています。
- 4 外来化学療法室**  
外来化学療法室は30床となり年々増加する外来抗がん剤治療へ対応します。
- 5 4床室**  
4床室と1床室は内装仕上げまでが完了した先行モデルルームが職員に公開され、検証確認を行いました。
- 6 1床室**  
写真の1床室はトイレ付ユニットシャワーが設けられる差額個室です。この他各フロアに一部屋ユニットバス、サニタリースペースが独立しているスペースの広い差額個室が設けられます。
- 7 緩和ケア病棟**
- 8 緩和ケア病棟病室** ] 最上階にはテラスを持った、全室個室26床の待望の緩和病棟も完成します。
- 9 最上階**  
最上階（8階）からの眺めです。8階ルーフガーデンからは手稲山をバックに札幌市街の眺望が得られます。

（報告：事務部 企画課 業務班長 山本亮次郎）



## 令和元年度 看護研究発表会

令和2年2月7日（金）に、「令和元年度 看護研究発表会」が開催されました。9 演題がエントリーされ、発表と活発な意見交換が行われました。研究メンバーは、およそ1年半の研究期間を経てデータを収集・分析し、新たな看護の知見を見出しました。

研究疑問は、日々の看護の中で、患者さんが治療や療養するうえで困難に感じているのではないか、などの看護師の思いから生まれました。ここから看護研究の目的を設定し、研究計画書を立案し、その目的を達成するためにデータを収集、分析し、その結果を過去に得られた看護の知見と照らし合わせながら意味づけをしていきました。



研究データは、過去の情報をさかのぼって収集したり、また、患者さんのご協力と同意を得て、質問紙調査やインタビューで収集されました。このような研究疑問は現場で看護を実践する看護師だからこそ生まれるものであり、看護の質を向上するうえで大変意義があると感じます。

研究テーマは、各部署の特色をふまえて様々なものがあがりました。一部をご紹介します。手術部門では、手術直後の患者さんの急激な体温低下に対応するために加温装置を導入、その有効性を術前と術後の時間経過に沿った体温変化で明らかにしました。婦人科部門では、治療に伴う副作用で外見の変化が伴うため、「アピランスケア」に焦点を当て、患者さんが求める情報を明らかにしました。泌尿器科部門では、終末期であり医療依存度が高い患者さんが在宅療養を継続できるよう、看護師が退院支援で何ができるのかを検討しました。がん治療を受ける患者さんの看護を病院内にとどまらず、退院後の生活を見据えて考え、さらに成果をみんなで共有することができました。



今後はこの研究成果を活かして日々の看護に努めていきたいです。看護研究を行うにあたり、助言指導をくださった皆様、そして私たちに多くを教えてくださいました患者さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（報告：教育研修係長 近 麻美）



# 「うちって、がん家系かも…」と思ったら。



がんゲノム医療センター  
認定遺伝カウンセラー  
箕浦 祐子

4月より当院に設置された「がんゲノム医療センター」に配属されました、認定遺伝カウンセラーの箕浦と申します。よろしくお願いいたします。

さて、表題のようなセリフを聞いたことのある、または考えたことのある人は、結構いるのではないのでしょうか？

がんは、ざっくり言うと、後天的におきる遺伝子の変化によって生じる疾患です。その要因には、紫外線や喫煙、過剰飲酒、肥満、ピロリ菌やHPVへの感染など、さまざまな因子があります。いわゆる「がん家系」の中には、例えば喫煙者が多かったり、食べ物の好みが似ていたり、生活習慣が似ていることが、がんの発症と関係している家系もあります。一方で、遺伝的な体質を共有することで、同じようながんの罹患者が多くなる家系もあります。

近年、遺伝子の研究が急速に発展する中、こういった遺伝性のがんの原因となる遺伝子がいくつか発見され、その遺伝子の変化によって生じるがんの種類や予後、リスクの低減法などがわかってきています。

生まれ持った体質として、がんを発症しやすいと聞くと、不安に感じるかもしれませんが、体質を知ることによって、発症しやすいがんの種類を知り、早期発見やリスク低減につなげられるというメリットもあります。

北海道がんセンターでは、がんゲノム医療を進める上で、遺伝性のがん患者さんへの対応も充実させてまいります。ご自身や担当される患者さんで、遺伝性のがんの心配のある方は、まずは、認定遺伝カウンセラーに相談してみませんか？

## 参加報告

## 北海道がん患者就労支援研修会

2019年度北海道がん患者就労支援研修会が1月20日の北見会場を皮切りに、1月29日釧路会場、2月6日札幌会場、2月13日に室蘭会場と道内4会場にて開催されました。

研修終了後すぐに北海道がんサポート企業や両立支援助成金の利用についてお声がけ、個別にがん相談をいただくなど予想以上の反響をいただきました。

研修を通じてがん（病気）と就労について企業や医療関係者の皆様に理解を深めていただけるよい機会となり、事例を通じて地域の地域がん診療連携拠点病院とをつなぐ機会ともなりました。今後も相談や研修を通じてがんとなっても仕事を続けられる社会となるよう支援していきます。

（報告：がん相談支援センター 相談支援・情報管理係長 榎野 裕也）



## 開催報告

## 卵巣がんサロン

当院ひだまりサロンで2月18日、卵巣がんの患者さんや体験の方が語り合う、初の卵巣がんサロンを開催しました。

全道から22人が集まり、加藤院長より冒頭挨拶をいただきました。また、この卵巣がんサロン開催が北海道で初めてであることから、当日は北海道新聞社の取材も入りました。

（報告：がん相談支援センター内 ピアサポーター 松本 洋子）



# 北海道がんセンター がん検診のご案内

## ● 4大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
  - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
  - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
  - 低線量CTによる肺がん検診
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40  
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

## ● 腹部3大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
  - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
  - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40  
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

## ● 低線量肺がんCT検診

一般的な肺CTよりも少ない被ばくでCTが受けられます。  
月～金曜日 ①12:00 ②15:00

## ● 乳がん検診

マンモグラフィによる検診  
毎週 火曜日・金曜日 14:30～

## ● 婦人科がん検診

子宮頸がん・子宮体がん検診。全てを行っても2、3分で終わります。  
毎週月曜日 9:00～  
毎週木曜日 14:30～

## ● 前立腺がんのPSA検診

採血後2時間以内に泌尿器科医師より結果とその後の指示を受けられます。  
完全予約制/月・木曜日 11:00

## ● 大腸がん検診

当院では予約日に消化器内科医師より直接検診結果を聞くことができます。  
完全予約制/月～金曜日 14:00～

## ● 胃がん内視鏡検診

専門的な知識と技術を備えたスタッフが対応させていただきます。  
完全予約制/毎週金曜日 ①9:00 ②9:20 ③9:40

## ● PET検診

全身を一度に調べることができます。  
平日/月曜日～金曜日 10:30

予約受付センターの受付時間：毎週 月曜日～金曜日  
電話による予約 13:00～16:00 / 窓口による予約 9:00～16:00

### 患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

### 患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

### 患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

〒003-0804  
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54  
代表 院 TEL (011) 811-9111  
FAX (011) 832-0652

ホームページ  
<https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

QRコード→



### ● 相談窓口

がん相談支援センター  
直通電話 (011) 811-9118  
地域医療連携室  
直通電話 (011) 811-9117  
直通FAX (011) 811-9110  
メールアドレス 100-mb05gas1@mail.hosp.go.jp

## 交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 病院裏の仮設駐車場をご利用いただけますが、台数に制限がございますので、来院の際はできるだけ公共の交通機関をご利用下さい。